ISSN 1341-4046

埋文やまがた

2000年10月31日
第18号

遊佐町 小山崎遺跡出土の県内最古のドングリ

財団法人　山形県埋蔵文化財センター
YAMAGATA　PREFECTURE　ARCHAEOLOGY　CENTER
〒999-3161　山形県上山市弁天二丁目15番1号　TEL 023-672-5301㈹　FAX 023-672-5586

2000年発掘調査トピックス

考古学年表

年代	時代		主なできごと	県内の主な遺跡	今年度発掘調査遺跡
60万年前 30万年前 13万年前 3万5000年前	旧石器時代	前期	日本列島に人（原人）が住み始める	袖原遺跡（尾花沢市）	
		中期		富山遺跡（寒河江市） 上屋地B遺跡（飯豊町） 弓張平B遺跡（西川町）	
		後期	石斧、ナイフ形石器など日本列島固有の文化成立	お仲間林遺跡（西川町） 角仁山遺跡（大石田町）	
B.C.11000 （1万3000年前）	縄文時代	草創期	土器・石鏃の使用が始まる 貝塚の形成、土偶の使用が始まる	日向洞穴遺跡（高畠町） いるかい遺跡（尾花沢市） 月ノ木B遺跡（南陽市）	
B.C.4000 （6000年前）		早期	漆の使用が始まる	一ノ坂遺跡（米沢市） 押出遺跡（高畠町）	小山崎遺跡
B.C.3000 （6000年前）		前期	気候の温暖化、海が内陸に入る	吹浦遺跡（遊佐町） 西ノ前遺跡（舟形町）	中川原C遺跡
B.C.2000 （400年前）		中期	太平洋沿岸に大規模な貝塚が成立 東日本で装飾豊かな土偶が作られる	西海渕遺跡（村山市） 山居遺跡（西川町） 川口遺跡（村山市）	中台遺跡群（4・5） 立泉川遺跡 かっぱ遺跡
B.C.1000 （3000年前）		後期	環状列石を持つ墓地・祭祀場が発達する 土偶・仮面・石刀等の祭祀盛んになる	泥部遺跡（上山市） 宮の前遺跡（村山市）	高瀬山遺跡（HO） 沼向遺跡 小山崎遺跡
		晩期	東日本に亀ケ岡文化が栄える 九州北部に水田稲作が伝わる	長者屋敷遺跡（長井市） 北柳１遺跡（山形市）	桜江遺跡
B.C.300 紀元前 A.D.1 紀元前	弥生時代		鉄器使用始まる 近畿中国四国を中心に銅鐸が広まる 57　倭の奴国王、後漢の光武帝より印綬を受ける 239　邪馬台国の卑弥呼が魏に使いを送る	生石２遺跡（酒田市） 蟹沢遺跡（東根市） 堂森遺跡（米沢市） 山形西高遺跡（山形市）	
300 400 500	古墳時代		大型の前方後円墳が各地に造られる 武器武具が盛んに埋葬される 538　百済から仏像・経典伝来	畑田遺跡（鶴岡市） 今塚遺跡（山形市） 稲荷森古墳（南陽市） 下小松古墳群（川西町） 大塚天神古墳（山辺町） 菅沢古墳（山形市） 大之越古墳（山形市） 西沼田遺跡（天童市） 物見台遺跡（中山町）	渋江遺跡 長表遺跡 蔵増押切遺跡
600	飛鳥白鳳時代		645　大化の改新、律令国家の形成へ 各地で寺院造営され仏教が広まる 694　藤原京に都を移す	清水前古墳（高畠町）	
700	奈良時代		710　平城京に都を移す 794　平安京に都を移す	山楯５窯跡（平田町）	馳上遺跡
800 900 1000 1100	平安時代		802　坂上田村麻呂、胆沢城を築く	西谷地遺跡（鶴岡市） 大浦B遺跡（米沢市） 俵田遺跡（八幡町） 城輪柵跡（酒田市） 山海窯跡（平田町） 八森遺跡（八幡町） 堂ノ前遺跡（八幡町） 平野山窯跡（寒河江市） 古志田東遺跡（米沢市） 手蔵田遺跡（酒田市）	四ツ塚遺跡 永源寺跡遺跡 石田遺跡 高瀬山遺跡（HO） 向河原遺跡
1200	中世	鎌倉時代	1192　源頼朝、鎌倉幕府を開く 1274・1281　文永・弘安の役（元冠）	大楯遺跡（遊佐町） 柳沢A遺跡（櫛引町）	
1300		南北朝時代		藤島城跡（藤島町） 山楯楯跡（平田町）	蔵増押切遺跡 小田島城跡
1400		室町時代	1467　応仁の乱、戦国時代へ 戦国大名が城館・城下を築く	米沢城跡（米沢市） 寒河江城跡（寒河江市）	
1500		安土桃山時代	1576　織田信長安土城を築く	大宝寺城跡（鶴岡市） 山形城跡（山形市）	白鳥館跡
1600	近世	江戸時代	1600　関ケ原の戦い	亀ケ崎城跡（酒田市） 新庄城跡（新庄市）	米沢城跡 鶴ケ岡城跡
1700 1800				城南一丁目遺跡（山形市）	
1900	近代・現代		1868　江戸が東京となる		

お住まいはどちら？

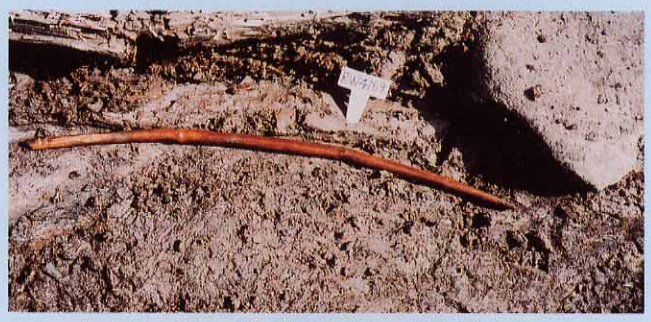
遊佐町小山崎遺跡

水辺の作業場全景から（上空南から）

縄文時代後期から晩期の水辺の作業場が見つかりました。クリ材の打込式の柱列や、湿地を渡る石敷き舗道があり、石敷き舗道は、日本最古です。

ここからは、丸木弓や木製品の製作途上のものとトチの実の殻が多数出土しており、水漬けにして木材を加工することやトチの灰汁抜き等の作業が行われていたことを物語っています。

居住域を探しての３年目の調査でしたが、まだ、当時の住まいの跡は見つかっていません。



丸木弓：70cm程の短弓です。現存長は48cm。

柄の付いた製作途上の木製品。長さ179cm。

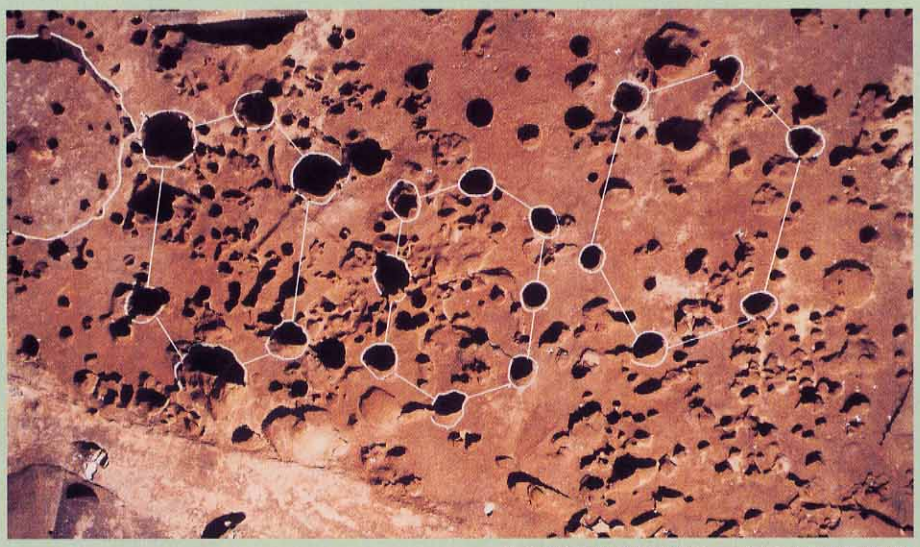
鋤状木製品の発掘の様子。長さ97cm。

縄文時代後期のムラが見えた！

最上町かっぱ遺跡

遺跡全景（東から）

遺跡は北・東・西の三方を山に囲まれた谷あいの沢筋に存在します。多くの住居跡と建物跡・土坑群が見つかったほかに、470箱もの遺物が出土し、県内の縄文時代後期の遺跡としては、貴重な資料となることが期待されます。



六角形の柱配置をもつ掘立柱建物跡群

竪穴住居跡から出土した遺物
（左：注口土器、右：深鉢）

竪穴住居跡（中央に炉跡がある）

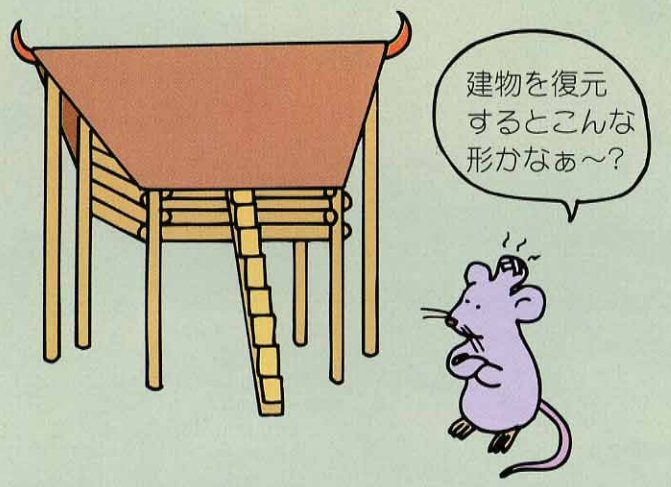
県内初！古墳時代の祭殿跡発見！

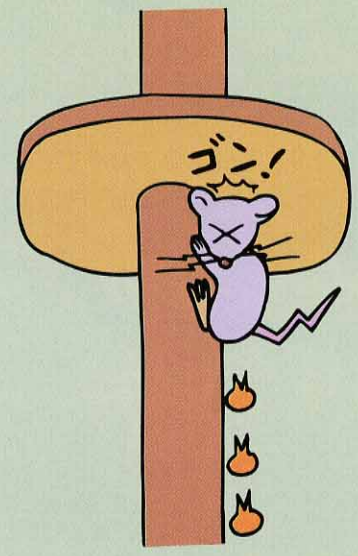
山形市長表遺跡

古墳時代（５世紀）の竪穴住居跡の下から、楕円形の穴が６基見つかりました。長さ約1.2m、深さ50cm程の穴で、底には礎板（そばん）が敷かれていることから、大型の建物の柱穴群とわかりました。中央の柱穴が外側に張り出しており、棟持柱（むなもちばしら）をそなえた大きい建物であったと考えられます。

このような建物は、祭りごとにかかわる祭殿であった可能性が高く、県内では初めての発見となります。

ネズミ返し板材の転用と思われる礎板





ネズミ返しの図

塀に囲まれた奈良時代の倉庫群！

山形市石田遺跡

↑真ん中に床を支える柱のある倉庫です。

南山形地区にある本沢川の扇状地から倉庫と考えられる20棟あまりの建物跡が見つかりました。建物は整然と向きを同じくして立ち並び、上の写真のように塀で囲まれたものもあります。また、中にはクリ材を使った柱根が残っているものもあります。

→太い４本の柱の周りを溝で囲まれた建物跡です。

湿地を渡る中世の敷石道路

東根市小田島城跡

湿地を渡るための石敷きの道路が見つかりました。

写真上は14世紀中ごろと思われる道路跡で、わきに大きな石を並べ、路面にはこぶし大の石を敷きつめています。

また右の写真は、この道路の50cm上から見つかった新しい時代（15世紀初頭）のもので、20～30cmの平らな石が幅１～1.5m、長さ12mに渡って並べられていました。

←遺跡から出土した日常の生活に使われた瀬戸産の陶器です。
中央のものは牡丹文様が描かれた14世紀ころの水注（みずさし）です。

国指定史跡

高畠町　日向洞窟（ひなたどうくつ）

秋晴れの日、日向洞窟のある尾根を歩くと、透明感のある甘い香りがゆっくりとただよってきます。大きな粒を実らせたぶどう畑が、洞窟の周りに広がっています。洞窟の入口前の広場は、日向の地名が似合う、とても居心地の良い場所です。

日向洞窟は、山形県高畠町の北西部、大きな岩が連なる立岩と呼ばれるところにあります。昭和29年、その立岩の洞窟や岩陰（いわかげ）で、昔の人々が生活した跡が発見されました。その後の発掘調査の結果、縄文時代草創期（そうそうき）（約12000年前）から奈良・平安時代（約1200年前）まで利用されていたことが分かりました。特に、洞窟から出土した縄文土器の一部は、日本の土器の中で最も古い段階に位置づけられ注目されました。これらは、縄文文化の始まりを解明するカギを握る資料の一つとして知られています。最も大きな第１洞窟は、入口の高さ1.5m、幅４m、奥行9.5mで、ほぼ真南を向いて開いています。内部は、日中でも薄暗く、外から見る以上に奥行きがあります。洞窟には、当時の食生活や自然環境を考えることができるウサギ・クマ・シカ・イノシシ・ハクチョウ等の骨や貝殻が残されていました。自然の産物である洞窟を利用した、縄文時代の人々のくらしがよみがえります。

昭和62年、日向洞窟の西側、約150m地点の西地区の調査が行われました。縄文時代草創期の竪穴住居跡（たてあなじゅうきょあと）が確認され、当時の生活の場が洞窟周辺で繰り広げられていたことが見えてきました。周辺の住まいの様子が調査されることにより、洞窟が生活のなかでどのように使われていたのか解明できると思われます。

日向洞窟は、地元の方々が年数回、美化活動を行う等、地域の中で大切に守られています。現地に立った時の居心地の良さは、長い間人々が生活していたぬくもりと、それを常に感じて洞窟を大切にしている地域の方々の心が伝わってくることによるのでしょうか。

（高桑弘美）

Illustration©KurosakaHilomi

前号の遺跡散歩に誤字がありましたので訂正いたします。日新戦争→日清戦争

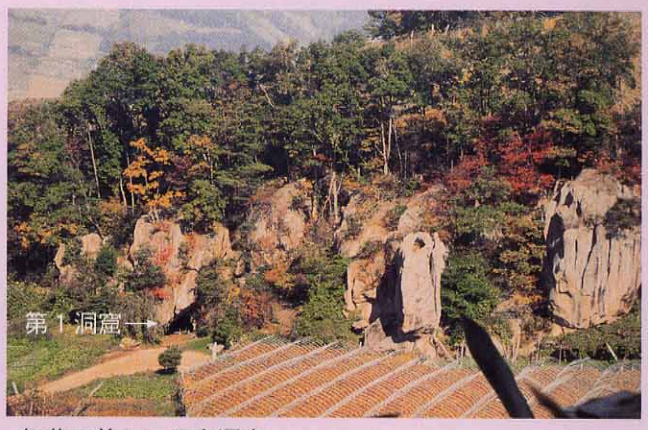
「埋文やまがた」の購読について

広報誌「埋文やまがた」購読ご希望の方は，当センターまで電話にてお問い合わせ下さい。なお，郵送料はご負担いただきます。

電話 **023(672)5301**（代表）

ミミの歴史散歩

芋煮会編



紅葉の美しい日向洞窟

土　器

石　器

約12000年前の道具
（西地区出土）

資料提供：高畠町教育委員会

編集後記

今年度の発掘調査も大半の遺跡で終了し、残る現場も終盤を向かえています。今後は室内にて出土品の整理に追われる毎日です。

次回の当紙は2001年２月に刊行予定です。21世紀の最初の「埋文やまがた」もお楽しみに！（新）